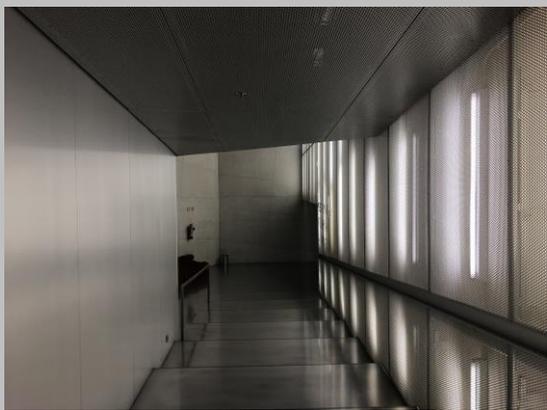


12.カーサ・ダ・ムジカ



円形の公園を中心に放射状に商業ビルやオフィスビルなどが建ち並ぶ場所に突如現れる巨大なコンクリート塊は遠くからでも存在感を放っていた。敷地は人工的にスロープを創り出し、トラバーチンの台座の上に供えられた岩のように佇んでいる。スロープの周りにはスケボーを楽しむ若者たちが多く集まっていた。

外観は単一の素材でシンプルに構成し建物の各面に平板やカーテン状の硝子を纏い内部空間と外の街とつなげる役目を果たしている。それとは反対に内部空間はパンチングメタルの壁天井、ステンレス板の床、コンクリート、吸音素材、アズレージョのタイル……と（メンテナンスはどうするんだ？と思われる納まりもあったが）様々な素材を駆使した変化に富んだ空間で構成されている。建物の形状からは想像しにくいのが、メインホールは「シューボックス型」になっており、客席後部のカーテン状の大開口から自然光が取り入れられるようになっている珍しいコンサートホールである。その周囲を性質の異なる大小の部屋が取り囲むように配置され、そのすべての部屋とコンサートホールが視覚的に繋がり、所々に外とつながる窓が開いているため、コンサートホールと外の街をも間接的に繋いでいる。外から内に引きつける大きな存在感とは反対に内部と外の街と繋がる性質をも持つ面白い建物である。

小見 友秀